（肺癌．2009;49:37-37）
© 2009 The Japan Lung Cancer Society

The 23rd Lung Cancer Mass Screening Seminar

第 23 回肺がん集検セミナーを振り返って

近藤　丘[1,2]

Review of the 23rd Seminar for Lung Cancer Mass Screening

Takashi Kondo[1,2]

[1]Chairman of the Committee for Screening of the Japan Lung Cancer Society, Japan; [2]Department of Thoracic Surgery, Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University, Japan.

(*JJLC.* 2009;49:37-37)

肺がん集検セミナーも今回で 23 回目を迎えることとなりました．比較的限られたテーマであるにもかかわらず，毎回々々白熱した議論をこれほど長い期間継続してこられたのは，社会的に解決すべき問題点が数多くあるということもさりながら，世話人の方々の創意溢れた運営の賜物であろうとまずは感謝申し上げる次第です．今回のセミナーも，今歩みはじめて今後どのように展開すべきか議論をされつつある石綿関連疾患の集団検診，そしてさまざまな意味で今曲がり角を迎えている肺癌検診システムという 2 つの大きなテーマをシンポジウムという形で取り上げていただきました．平成 17 年以来，日本肺癌学会集団検診委員会委員長という立場でこの会に参加をさせていただいておりますが，参加者の数の多さ，参加されている方の職種の多様さ，そして何よりも議論へ参加する意欲の高さに毎回驚かされています．今回も世話人をお引き受けいただいた松井英介先生のご尽力によって，前述の 2 つのテーマのみならず，ランチョンセミナー，招請講演まで盛り込まれた実に充実したセミナーとなり，参加者も 200 名を越える盛会となりました．シンポジウムの議論の中では，具体的に日本肺癌学会に課題として投げ掛けられるような内容のものもあり，集団検診委員会としての今後の活動に大きな示唆をいただいたものと思います．とくに肺癌集検の現場においてデジタル撮影装置が従来の間接撮影の機器に取って代わるようになっており，肺癌取扱い規約の内容を現状に合わせて一部見直すべき時期に来ていることが議論の中で指摘されたものと思います．また，肺癌集検における喀痰細胞診の意義づけについても議論がありましたが，これは現在集団検診委員会が取り組んでいる課題であり，近いうちにまとまったお話ができるようになるものと思います．ランチョンセミナーでは喫煙問題について佐藤功先生のますますパワーアップしたお話を楽しく拝聴することができました．招請講演では Henschke 先生が今後の肺癌検診問題における国際的な協調と息の長い活動の必要性をわかりやすいお話で強調されたのが印象に残っています．丸一日の長丁場でしたが，最後まで熱心な議論が絶えることなく，まことに有意義なセミナーでありました．このような充実したセミナーの開催にお世話をいただきました第 48 回日本肺癌学会会長の下方薫先生と，企画・運営を担当していただいた世話人の松井英介先生に心より感謝申し上げる次第です．

[1]日本肺癌学会集団検診委員会委員長；[2]東北大学加齢医学研究所呼吸器再建研究分野．